

都市再生整備計画 事後評価シート
多摩センター駅周辺地区

令和8年3月

東京都多摩市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	東京都		市町村名	多摩市		地区名	多摩センター駅周辺地区			面積	63 ha				
交付期間	令和4年度～令和6年度		事後評価実施時期	令和7年度		交付対象事業費	-		国費率	-					
1)事業の実施状況	事業名														
	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業													
		提案事業													
	当初計画から削除した事業	事業名					削除/追加の理由								
		基幹事業													
	新たに追加した事業	基幹事業													
提案事業															
交付期間の変更	当初			交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響											
	変更														
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期			
	指標1	居心地の良い滞留空間の創出、活用日数	日/年	245	基準年度	R2年度	255	目標年度	R6年度	モニタリング	評価値	254	△	あり ● なし	近年の傾向より改善したが、天候や他のイベントとの兼ね合いもあり、目標値をわずかに達成できなかった。
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期			
	その他の数値指標1														
	その他の数値指標2														
	その他の数値指標3														
4)定性的な効果発現状況															
5)実施過程の評価	実施内容				実施状況				今後の対応方針等						
	モニタリング				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった										
	官民連携による取組	事業主体:多摩センター地区連絡協議会 占用の場所:市道5-31号歩線 年間を通して食事施設(パラソル・椅子等)を設置して適切に維持、活用することにより、居心地の良い歩行者空間、滞留空間、まらのにぎわいを創出した。			都市再生整備計画に記載し、実施できた ● 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった										
	持続的なまちづくり体制の構築	「多摩ラボ(仮称)」を令和5年度に立ち上げ多摩ラボを通じてまらのひとがまちづくりに参加できる機会(ワークショップ)を創出しながら、ハルテノン大通りや多摩中央公園などの公共空間の使い方について議論・実践した。			都市再生整備計画に記載し、実施できた ● 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった										

様式2-2 地区の概要

多摩センター駅周辺地区(東京都多摩市) 都市再生整備計画事業の成果概要								
まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標：広域拠点、駅拠点にふさわしい魅力と賑わいあふれる街の実現 小目標：官民一体となった賑わいのある歩行者空間、滞留空間の創出、維持・活用	居心地の良い滞留空間の創出、活用日数	単位：日/年	245	R2年度	255	R6年度	254	R6年度
まちの課題の変化	本事業により市道5-31号歩線においては、滞留空間を創出、活用することで、にぎわい創出につながったが、駅拠点である多摩センター地区全体のポテンシャルを生かして切れていないことから、パルテノン大通り等を含めたエリアとして拡大した事業展開が求められる。							
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	市道5-31号歩線における食事施設の設置の継続 沿道商業施設等と歩道空間が一体となった官民連携の居心地の良い歩行者空間、滞留空間を継続して創出し、維持・活用を図る。 パルテノン大通り等を対象としたウォーカブル推進事業の実施 パルテノン大通りを中心とした、植栽樹の改修、電源・給排水施設の設置、休憩施設の整備等の滞り環境整備(ハード整備)の整備内容をまとめた整備計画を策定する。 滞り環境整備(ハード整備)の整備内容をまとめた整備計画の策定に向けて、市民の意識醸成とともに、まちのつかい手や市民のニーズ等を把握する社会実験を実施する。また、柔軟な公共空間利活用が可能となる制度・仕組みを構築することを目指す。これらの取組により最終的に日常時は居心地が良く、イベント時は楽しさが増す滞り環境を創出する。							